

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 ファッションテキスタイル科) 2024年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			アパレル素材論	アパレル製品や各自制作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル（衣服）の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材（テキスタイルファブリック）を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ理解を図る。	1・通年	60	2	○			○	○			
	○			染色演習	実験実習・レポート製作を通して各染色技法、加工方法を習得し、新たな発想力、表現力を養う。 素材選択から染色加工に至るまでのファッション衣料としてのテキスタイルの総理解を図る。 概論、基礎実験、工芸染色、夏期休暇課題、展示会見学	1・通年	120	4		○		○	○			
	○			ウィービング基礎演習	前期は三原組織を中心にサンプル制作を通じ、織物の構造を理解し、制作に必要な知識・技術を習得する。 前期後半から後期にかけてはマフラー・厚地織物サンプル・身につける布をテーマとした自由制作により、素材・組織選びなど用途に合わせた織物の企画をすることで、風合い・機能・効果を習得する。	1・通年	120	4		○		○		○		
	○			テキスタイルクリエイションⅠ	テキスタイル製作において必要な基礎カリキュラムの充実をはかる。 作品制作を通して、「基礎知識」「基礎技術」「基礎デザイン」が習得できるようにする。 テキスタイルワーク、日傘制作、民族衣装制作	1・通年	90	3			○	○		○		
	○			服飾造形Ⅰ	服飾造形としての一般知識、原型の作図方法、縫製の基礎を理解させる。 衣服制作をとおして衣服の構造を理解し、ファッション衣料としてのテキスタイルを関連させ指導する。 衣服造形の基礎、服飾造形概説、スカートの知識・縫製、シャツ・ブラウスの基礎知識・縫製。	1・通年	120	4			○	○		○		

6	○		自由研究 I	自由研究ならではの講義および実習を導入する。 各自でテーマを設定し、目的に照準を合わせて作品制作や研究調査を行うことで自主性を養う。 他学生の発表を聴き、情報交換をすることで知識の幅を広げる。	1・ 通年	60	2			○	○		○					
7	○		ドレーピング I	立体裁断の基本的考え方、基礎的技術・知識を理解させる。 布目の重要性・ボディとパターンの関係、ドラフティングの仕方、平面から立体への布のとりえ方、視覚訓練の重要性。 立体裁断の基礎、タイトスカート、身頃の基礎、シャツ・ブラウス	1・ 通年	60	2			○	○		○					
8	○		ニット基礎	ハンドニットの一般知識（素材・道具・編み地）と棒針、鉤針編み、家庭用手編み機の理解と作品作りの知識を習得する。テキスタイル研究の一環としてニットの可能性を知り、テキスタイルの幅を広げる。	1・ 後期	30	1			○	○							○
9	○		色彩論・演習 I	ファッションの色彩に関する基礎的な知識と技術を、講義と実習を通して身につける。 色彩の体系、色彩の科学、色彩心理、配色の基礎について学び、ファッション工芸の現場で生かすことを目標とする。	1・ 前期	30	1	△	○		○		○					
10	○		デッサン	様々なものの見方を通じ、描写の楽しさを再認識する事と合わせ、創造力を伸ばす為の観察力・イメージを見る側に伝える為の基本描写力・着装画の土台となる立体造形の描写力向上を目的とする。	1・ 通年	60	2			○	○		○					
11	○		ファッションデザイン画 I	人体プロポーションと体の動きを理解し、衣服のデザイン・構造を的確に描く技術の育成を第一の目標とする。 基礎的なドローイングテクニック、アクリルガッシュを使用した彩色テクニックの基礎を習得させる中で、学生個々の表現力を伸ばす。	1・ 通年	60	2			○	○		○					
12	○		ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・ 後期	30	1	○			○		○					
13	○		デザインプランニング演習	デザインに至るまでのプロセス・テーマの掘り下げ・コンセプトの固め方 企業・フリーランスデザイナーが行っている作業を実践すると共にプレゼンテーション能力を身につける。	1・ 後期	30	1	△	○	○		○	○					

14	○			ハンディクラフト	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にしてテキスタイル、服飾、小物造形などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニク・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな想像力を身につけることを目標とする。	1・ 通年	60	2				○	○	○				
15	○			西洋服装史	衣服の起源を始めとし、古代から現代までの西洋服飾の変遷を時代背景、文化的背景と結びつけながら解説します。過去の衣服と現代ファッションとの関連性にも着目しながら学び、得た知識をあらゆるデザイン分野に活かせることを目標とします。	1・ 前期	30	1	○				○					○
16	○			グラフィックワーク	Photoshopの基本操作を習得し、画像の切り抜き・合成ができるようになる。Illustrator初心者を対象に、ソフトの基本操作を習得し、ペンツールの描画方法、連続柄の作成方法、回転・反転ツール等の操作を身につける。	1・ 通年	60	2				○	○	○				
17	○			特別講義 I	通常カリキュラムの範囲外における、テキスタイルに関する情報や知識を学ぶ。素材、デザイン、撮影、編集、服装解剖学、伝統衣装 等	1・ 通年	30	1	○				○					○
18		○		インターンシップ I (自由選択)	就職活動の一環として企業や業種の現場研修を行い、仕事の内容を認識するとともに、早期から就職意識を高め、活動することを目的とする。	1・ 通年	30	1				○		○				○ ○
				学年合計		17科目	1,050単位時間 (35単位)											
19	○			テキスタイル論	アパレル素材論で学んだ基礎知識をもとに講義・演習・実験を通し、素材特性を最大限に引き出したより完成度の高い制作をはじめ、取扱い等を含めた素材知識を身につける事を目標とする。	2・ 通年	60	2	○				○					○
20	○			テキスタイルプランニング	ファッションテキスタイル制作において、プランニングの重要性を理解する。素材の基本から最新の情報までを紹介し、「今求められているのは何か」を掴むことにより、明確な目的を持ったプランニングを目指す。あくまでも実学を志し、幅広い視野の知識を身につけ、豊かな発想力を生かせるように、総合的ノウハウを取得する。	2・ 後期	30	1					○	○				○ ○
21		○		染色演習 (選択)	実験実習・レポート製作を通して各染色技法、加工方法を習得し、新たな発想力、表現力を養う。素材選択から染色加工に至るまでのファッション衣料としてのテキスタイルの総合理解を図る。概論、基礎実験、工芸染色、夏期休暇課題、展示会見学	2・ 通年	120	4				○		○				○

22	○			プリントデザイン演習Ⅰ	手捺染によるスクリーンプリントとパソコンを使用したデジタルプリントのそれぞれの仕組みと特徴を把握し、繊維業界に通じる実践的な技術を修得することを目標とする。前期はスクリーンプリント・デジタルプリントともに、一連の演習で基礎技術を身につける。後期のスクリーンプリントは応用的なプリント・加工法を用い、デジタルプリントはパソコンの操作技術を向上させ、それぞれの技法で制作物の完成度を上げる。	2・通年	120	4		○	○	○						
23	○			ウィービング基礎演習（選択）	前期は三原組織を中心にサンプル制作を通じ、織物の構造を理解し、制作に必要な知識・技術を習得する。前期後半から後期にかけてはマフラー・厚地織物サンプル・身につける布をテーマとした自由制作により、素材・組織選びなど用途に合わせた織物の企画をすることで、風合い・機能・効果を習得する。	2・通年	120	4		○	○	○						
24	○			ウィービングデザイン演習Ⅰ	1年次のウィービング基礎実習で学習した基礎に加え、さまざまな織物技法を習得する。それらの知識や技術を用いてアパレルやファッション小物など製品の素材としてのテキスタイルを意識した織物制作を行う。	2・通年	120	4		○	○	○						
25	○			テキスタイル図案Ⅰ	前期は実技課題を通じてテキスタイル図案の基礎である送り（リピート）とは何かを学び、同時に制作過程において画材の取り扱い方・アイデアを表現するための技術を習得する。後期はテーマ別の図案作成により季節・ターゲット・用途などに合わせたデザインを考え表現する事で実務に生かせる能力を身につける。	2・通年	60	2	△	○	○	○						
26	○			テキスタイルクリエイションⅡ	デザインやアイデアを実現する。目的を実現するための技術を個々が学ぶ中で、その達成のために様々な実験を行い、知識や技術を学ぶと共に、同級生が同じく製作する作品の経験を共有しつつ、テキスタイル表現の多様性を学ぶと共に、製作におけるそれらの経験を重ねることにより、具体的なデザインの方法を学ぶ。	2・通年	120	4		○	○	○						
27	○			自由研究Ⅱ（選択）	各自が研究テーマを決めて、歴史、特徴、技法、デザインなどの情報収集、資料活用し実物作品製作やサンプルのファイル資料作成。また、各コンテスト活動、コラボレーションにも積極的に参加実習することを目的とする。	2・通年	60	2		○	○	○						
28	○			服飾造形Ⅱ（選択）	パンツとワンピースを制作しその構造を理解する。作図理論・パターン展開方法を把握し基本的な縫製技術を習得する。各自が制作したオリジナルテキスタイルを全体的または部分的に使用させる。	2・通年	120	4		○	○	○						

29	○	ドレーピングⅡ(選択)	立体裁断の基本的考え方、基礎的技術・知識を理解させる。 布目の重要性・ボディとパターンの関係、ドラフティングの仕方、平面から立体への布のとらえ方、視覚訓練の重要性。 立体裁断の基礎、ゴアードスカート、プリンセスラインのワンピースドレス	2・前期	30	1				○	○								
30	○	色彩論・演習Ⅱ	色彩論・演習Ⅰで習得した色彩の知識や技術を基礎とし発展的に学習する。 テキスタイルの実際制作において必要と考えられる色再現(混色)に対する知識、技術を高めることを目標の一つとする。 また、市場やメディアからのファッション情報を前提とした色彩計画の考え方について演習を通して学習する。	2・前期	30	1			○	△	○							○	○
31	○	ファッションデザイン画Ⅱ	デザイン表現のアイディアの可能性を様々な角度からインスピレーションを展開していきながら、着装デザインの表現テクニックを身につけることを目標とする。 個々のオリジナリティを広げられるようなデザイン表現を探っていく。	2・通年	60	2					○	○							○
32	○	ファッションマーケティング	ファッションマーケティング、マーチャндаイジングへの理解を深める。 ブランド開発をもとに戦略立案から商品企画、プレゼンテーションまで行う事でその知識を身につける。	2・前期	30	1			○		○								○
33	○	染織文化論Ⅰ	日本の染織文化について年代を追って歴史的に解説する。また、日本の染織文化に影響を及ぼした中国や東南アジアなどの東洋の染織文化や西洋の染織文化のつながりについて触れることにより、深い理解と見識を広げ、染織の文様や知識を身につけることを目指す。 様々な染織の知識はテキスタイルを考えるうえで応用できる基礎的な力を育てることを目標とする。	2・通年	60	2		○				○							○
34	○	キャリア開発	就職活動に必要な、「考える」「聴く」「書く」「話す」「伝える」などのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを、講義+実習を通して身につけさせる	2・後期	30	1			○			○							○
35	○	特別講義Ⅱ	通常カリキュラムの範囲外における、テキスタイルに関する情報や知識を学ぶ。 テキスタイル関連、素材、デザイン、ファッション、アパレル、トレンド分野	2・通年	30	1		○				○							○
36	○	校外研修	学外にてテキスタイル産地・業界を見聞することにより視野を拡げ、より多くの専門的な知識を得ると共に就職を見据えてテキスタイルの専門分野を習得する。 ファッション工芸課程各科の専門分野に特化した研修先へも訪問。	2・前期	30	1					○		○	○					

37	○		企業・学内研修	学外にてアパレル、テキスタイル企業の研修することにより、専門的な知識を得ると共に就職を見据えた社会性を研修をとおして習得する。学外、学内研修先を選択する。	2・後期	60	2			○	○	○	○
学年合計				17科目	1,050単位時間 (35単位)								
38	○		テキスタイルマーチャンダイジング	分業によって成り立つテキスタイル業界の構造と、繊維産地における企画・製造について解説していきます。社会分析と自己分析を深め、社会に向けユニークな企画提案・販売設計ができることを目標とします。	3・通年	60	2	○	△	○		○	
39	○		プリントデザイン演習Ⅱ	プリントデザインの流れは、その時の社会状況を反映し、時には時代のトレンドをリードしている。ファッションのためのテキスタイルとして、デザインの知識や技法、思想を知ることによって各自のプリントデザインの布地製作に活かしていくことを目的とする。	3・前期	120	4		○	○	○		
40	○		ウィービングデザイン演習Ⅱ	1、2年次の「ウィービング基礎演習」「ウィービングデザイン演習Ⅰ」で学んだ織物構造、デザインの基礎を踏まえ、アパレル製品の素材として織物を大量生産する立場から捉えられるよう指導する。同時に新たな織物デザインの可能性をさまざまな面から追求する。	3・前期	90	3		○	○	○		
41	○		テキスタイル図案Ⅱ	2年次の演習の上にさらに独自の発想を表現できるレベルに技術を向上させ、テーマ別にターゲット・季節など使用するシーンをこまかく設定した図案を作成することで繊維業界における図案の実際を学ぶ。プリント演習・服飾造形等他の授業と連携し図案作成からプリント、縫製まで服作りの流れを習得する。	3・通年	60	2	△		○	○		○
42	○		テキスタイルクリエイションⅢ	1・2年次で学んだテキスタイルに関する知識、技法を活かし3年次の課題としてトレンドを意識したテキスタイルを制作する。各自がテキスタイル企画から制作までを行い、企画力や技術をスキルアップし卒業制作に活かすことを目的とする。	3・後期	120	4			○	○		○
43	○		テキスタイル商品企画	ストール作りに必要な素材の知識や、即戦力になる応用的な織組織を学ぶ。グループに分かれてブランドを立ち上げ、ストールを企画して仕上げ、プレゼンを行う。	3・通年	60	2			○	○		○
44	○		服飾造形Ⅲ	ジャケットとコートを作成しその構造を理解する。作図理論・パターン展開方法を把握し基本的な縫製技術を習得する。各自が制作したオリジナルテキスタイルを全体的または部分的に使用させる。	3・通年	120	4			○	○	○	

45	○		ファッションデザイン画Ⅲ	ファッションデザイン画に求められる技術・知識・感性の要素をカリキュラムに配分し課題ごとに構成。 学生が自らのアイデアを具体的に表現できる実力を育成する。	3・通年	60	2			○	○	○							
46	○		染織文化論Ⅱ	古代から現代まで時代背景に基づきながら、西洋染織の変遷と特徴を解説します。 各時代の染織模様の由来や象徴性について理解を深めるとともに、過去の染織から学んだ知識を新たなデザイン発想へと展開させ、さまざまな分野のテキスタイル制作に応用させることを目標とします。	3・通年	60	2	○			○							○	
47	○		アパレル品質論	テキスタイルやアパレルの企画、製造、販売における品質管理に関する知識を習得し、「関連する法律を理解し遵守する」「お客様の要求品質を満たす」ための活動ができることを目標とする。 講義と演習により理解を深める。	3・前期	30	1	○				○						○	
48	○		ピンワーク	・ピンワーク習得を通して素材の特性を理解し平面から立体への表現を実感する事で発想や創造力の幅を広げる。 ・テキスタイルの展示会を想定し、企画～資料作成～プレゼンテーション～演出までを身につけ現実的な意識を高める。	3・通年	60	2				○	○							○
49	○		特別講義Ⅲ	通常カリキュラムの範囲外における、テキスタイルに関する情報や知識を学ぶ。 テキスタイル関連、素材、デザイン、ファッション、アパレル、トレンド分野	3・通年	30	1	○				○							○
50		○	インターシップⅡ (自由選択)	就職活動の一環として、企業や業種の現場研修を行い、仕事の内容を認識するとともに就職意識を高め、活動することを目的とする。 また、内定者も継続して研修することにより、実践的な仕事の現場研修とする。	3・後期	30	1				○								○
51		○	コラボレーション (自由選択)	・企業との産学連携のカリキュラムをとおり、学内では学び得られない現場に則した指導を受けることにより、就業内容に近い学習効果が得られることを目的とする。 ・学内他学科学生との連携により、相互理解と、共創教育による自主性や積極性の発展へと導く人材育成を目指す。	3・通年	30	1				○								○
52	○		卒業研究・創作	ファッションテキスタイル科の最終課題及び集大成として制作するテキスタイル素材とファッションデザインの運動と調和、トレンド性を意識し、テキスタイルの専門分野に特化した完成度の高い作品制作を目的とする。 制作から発表形式までを想定し、作品の効果的な見せ方を考え、表現力を養う。	3・後期	120	4				○	○							○
学年合計						13科目			990単位時間 (33単位)										
総合計						47科目			3,090単位時間 (103単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 最終学年の修了、卒業必須単位数の取得	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。